



# 鳥類

Birds

## 葛西海浜公園で見られる 主な生き物



葛西海浜公園では、120種以上の鳥類が確認されています。特に干潟環境を生息場所とする鳥類を数多く見ることができます。

春秋の渡りの時期には、トウネン、キアシシギ、アオアシシギ、コチドリといったシギ・チドリ類が多数飛来します。

毎年冬には数万羽のスズガモのほか、カンムリカイツブリの群れが飛来します。クロツラヘラサギのような、世界的にも個体数が少ない種も見られます。

春 秋 冬 …季節



春 秋

トウネン



冬

クロツラヘラサギ



冬

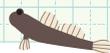
スズガモ



冬

カンムリカイツブリ

## 葛西海浜公園で見られる 主な生き物



### 魚類

など

Fishes etc.

干潟を好む魚類や底生動物を数多く見ることができます。

トビハゼやエドハゼといった、干潟に生息する希少な魚類を見ることができます。

東なぎさの干潟を中心に、ヤマトオサガニやコメツキガニといったカニ類が多数生息しているほか、アサリ、ソトオリガイなど食用になる貝類も豊富です。



トビハゼ



イシガレイ



ヤマトオサガニ



コメツキガニ



シタラエビ



ユビナガスジエビ



アサリ



ハマグリ



ソトオリガイ



チロリ



# 葛西海浜公園で見られる 主な生き物



## 植物

Plants

葛西海浜公園では、イソヤマテンツキやハマゴウなど、海岸に生息する植物が自生しています。

また、ウラギクは塩分を含んだ湿地に生育する代表的な種です。

公園整備時には、クロマツやトベラなど、海岸の強風や乾燥に強い植物が植栽されました。

東 …主に東なぎさで生育しているもの



テリハノイバラ



ハマゴウ



ウラギク



ヨシ

# 葛西海浜公園は 東京都で初めて ラムサール条約湿地に 登録されました

## 葛西海浜公園のラムサール条約湿地の登録

葛西海浜公園の干潟は、広大な干潟環境が保全され、人々の様々な営みが豊かな自然と共存していることなどから、平成30年(2018年)10月に国際的に重要な湿地であるとしてラムサール条約湿地に登録されました。

区内では初めての登録であり、東京都では、これからも地域や公園利用者の皆様とともにこの干潟を守り、持続的に活用する取組を進めていきます。

葛西海浜公園は9つの国際基準のうち、  
次の**3つ**を満たしています。

**1** 定期的に2万羽以上の水鳥を支えている湿地

➔ ガンカモ類が該当

**2** 水鳥の1種または、1亜種の個体群の個体数の1%以上を定期的に支えている湿地

➔ スズガモ、カムリカイツブリが該当

**3** 生活環の重要な段階において動植物種を支えている湿地



登録認定証

## 干潟の役割

潮の満ち引きによって水没と干出を繰り返す沿岸域の砂泥地を干潟といいます。

太陽の光が届き、潮の流れによって栄養分が運ばれることから、プランクトンが豊富であり、それを餌とする貝やカニなどが砂や泥の中に生息しています。さらに、それらを捕食する魚や鳥などの様々な生き物も集まっています。自然豊かな干潟は、人々の生活に役立つ多くの役割を持っています。

- 潮干狩り、釣り、舟遊びなど、海辺の憩いの場
- 貝や魚などの食料の供給
- 貝などの生き物が水中の有機物を食べることによる水質浄化
- 波浪を抑制し、海岸を保全することによる防災機能 など



## ラムサール条約の特徴

ラムサール条約(正式名称:特に水鳥の生育地として国際的に重要な湿地に関する条約)では、様々な生き物の生息・生育地として重要な湿地を守っていただくだけでなく、**ウィズユース**を進めていくことを奨励しています。また、その手段として、交流、能力養成、教育、参加、普及啓発を重視しています。



CEPA

Communication(広報)

Education(教育)

Public Awareness(普及啓発)

## ウィズユース(Wise use = 賢明な利用)とは

湿地の生態系を損なわず、持続的に維持・利用していくことにより、また、産業や文化的利用により、人間生活を豊かにするとともに、次世代へと継承していくことを目指しています。

## 湿地とは

ラムサール条約では、「湿地とは、天然のものであるか人工のものであるか、永続的なものであるか一時的なものであるかを問わず、更には水が滞っているか流れているか、淡水であるか汽水であるか鹹水(海水)であるかを問わず、沼沢地、湿原、泥炭地又は水域をいい、低潮時における水深が6メートルを超えない海域を含む。」と定義しています。

